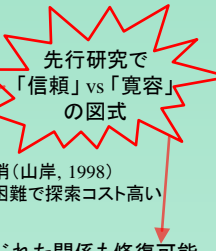


# ビネット法を用いたインターネット調査による「寛容な信頼」の検証

稲垣 佑典 調査科学研究センター 特任助教

## 社会的ジレンマと「(一般的)信頼」、「寛容」、「寛容な信頼」



- ◆ 個人の合理性に基づき自己利益をひとすらすら追求すること、社会全体としての最適な選択との間に生じる齟齬＝「社会的ジレンマ」
  - 「人々が功利的に利害を追求するとき、いかにして社会秩序は可能か？」
  - ホブズ問題 (Parsons, 1937)
  - その他、ゲーム理論の「囚人のジレンマ」(Tucker, 1950)、公共財管理における「コモন্ズの悲劇」(Hardin, 1968) etc...
- ◆ 人々が互いに協力し合うことで「社会的ジレンマ」は克服可能だが、フリーライダー問題や裏切りによる一方的搾取が発生
  - 社会への適応能力・方略を獲得
  - (例:「裏切り者検知モジュール」Cosmides & Tooby, 1989)

- ◆ 適応能力、社会関係資本としての「(一般的)信頼」
  - 高信頼者は新規の関係構築に積極的
    - ⇒ 信頼性の検知能力に優れ、裏切り者との関係を即時解消 (山岸, 1998)
    - ⇒ 些細な失敗でも関係解消するため、長期の関係構築が困難で探索コスト高い
- ◆ 関係維持・改善のための「寛容」
  - ミス・裏切りを許容することで長期的関係を構築、こじれた関係も修復可能
    - ⇒ 互惠関係の確立、探索コスト縮減 (McCullough & Pederson, 2013)
    - ⇒ 搾取される続けるリスクが存在
- ◆ 信頼しつつ一定程度の裏切りを許容する「寛容な信頼」が存在している?
  - ⇒ 一定の裏切り許容はノイズを伴うジレンマゲームで有効 (Axelrod, 1984)
  - ⇒ どの程度失敗・裏切りにも寛容か?

## ビネット法とインターネット調査概要

- ◆ ビネット法 (場面想定法) とは
  - 架空の場面についての具体的な記述 (=ビネット) を、情報の内容・強度別に数セット用意して回答結果を比較する心理実験的調査手法

### 利点

- 1) 一般的な調査項目よりも問いが具体的で、調査対象者の誤解や思い込みによる混乱が生じにくい
- 2) 実験計画に基づき、要因の組み合わせや検定力を事前に算出可能で、条件間の独立性を担保

### 欠点

- 1) 実験室実験と比べて、操作と統制が甘い
- 2) 架空の状況にどれだけ真剣に対峙してくれるか不明 (+インターネット調査で懸念される Satisfice 行動が深刻化する可能性もある e.g., 三浦・小林 2015)
  - ⇒ Satisfice 行動は、検知項目や回答時間測定で部分的に対応可能

## 「寛容な信頼」の探索的検証

- ◆ 「寛容な信頼」測定項目を作成し、「(一般的)信頼」および「寛容」と弁別可能か検証

### 「信頼」、「寛容」に関する項目

- 1) 「一般的信頼感尺度」6項目 (山岸, 1998)
- 2) 「寛容性項目」: 「意見の相違」、「迷惑行為」への寛容性 (小林・池田, 2005)
  - + Interpersonal Generosity Scale (Smith & Hill, 2009) から6項目

### 「寛容な信頼」項目

- 仕事を依頼する(した)場合を想定
  - 1) 相手を選択する場面 (マッチング) について4項目
  - 2) 結果を受けての対処場面 (サンクション) について4項目

- ◆ 「信頼」、「寛容」と異なる因子を構成するか、探索的分析から概念的な違いを検証

➢ 想定通り、異なる5つの因子が抽出 (表1)

- 第1因子: (一般的)信頼
- 第2因子: 寛容な信頼 (サンクション)
- 第3因子: 寛容な信頼 (マッチング)
- 第4因子: (行為的)寛容
- 第5因子: (態度的)寛容

表1 「信頼」、「寛容」、「寛容な信頼」項目の探索的因子分析結果

	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	第5因子
	(一般的)信頼	寛容な信頼 (サンクション)	寛容な信頼 (マッチング)	(行為的)寛容	(態度的)寛容
ほとんどの人は信頼できる	0.88	-0.02	-0.03	0.04	0.01
ほとんどの人は基本的に善良で親切である	0.88	-0.03	0.01	-0.05	0.00
ほとんどの人は他人を信頼している	0.82	-0.06	0.02	0.01	-0.01
ほとんどの人は基本的に正直である	0.77	-0.04	-0.02	-0.01	-0.04
私個人を信頼するほうである	0.60	0.09	-0.02	0.05	0.10
たいていの人は、人から信頼された場合、同じように相手に信頼する	0.57	0.17	-0.03	0.01	-0.04
何度も失敗してきた人でも、面倒を見続けてやれば、いつか復讐をあげることが出来る	0.03	0.73	0.11	0.13	-0.18
失敗した人を許してあげることが相手の行動を直すことにつながる	0.09	0.71	0.01	-0.02	-0.07
仕事に失敗した相手にも、再挑戦の機会を与えてあげるべきだ	-0.05	0.68	-0.07	-0.09	0.16
誰にでも失敗はあるのだから、仕事を失敗した人のことは許してあげるべき	-0.03	0.67	-0.03	-0.04	0.09
素性のわからない相手であっても、気にせず仕事を依頼する	-0.01	-0.09	0.69	0.04	-0.11
新しい仕事を依頼するときには、相手の過去の評判や業績のことは気にしない	-0.05	0.03	0.66	-0.03	-0.01
最近に仕事を依頼して失敗したことがある人にも、再び仕事を頼むことができる	-0.04	0.16	0.54	0.06	0.08
少いでも見込みがありそうならば、どんな人であろうと仕事を依頼してみる	0.03	0.16	0.36	-0.08	0.17
他人に迷惑をかける人とはつきあわない(逆転)	0.01	0.09	-0.02	0.75	-0.04
善人などとはつきあいをやめる(逆転)	0.04	-0.04	0.06	0.55	0.19
まわりに合わせてられない人は、他人から避けられても仕方がない(逆転)	-0.03	-0.11	0.00	0.44	0.06
自分と意見や価値観が違う人とも気にせずつきあう	0.08	-0.09	0.22	0.07	0.55
いろいろな意見や価値観を持った人がいるのは健全なことだと思う	0.02	0.09	-0.05	-0.22	0.53
自分の考えと違う意見は聞きたくない(逆転)	-0.08	0.01	-0.20	0.28	0.52
第1因子 (一般的)信頼	—	—	—	—	—
第2因子 寛容な信頼 (サンクション)	0.21	—	—	—	—
第3因子 寛容な信頼 (マッチング)	0.37	0.41	—	—	—
第4因子 (行為的)寛容	0.03	-0.31	0.11	—	—
第5因子 (態度的)寛容	0.09	0.56	0.10	-0.25	—

## 「寛容な信頼」はどこまで寛容か?

- ◆ ある人の仕事上のミスをもどの位まで許容できるかを

- ミスの程度異なるビネットを用いて比較
- ミスを犯す人の情報ありなしの2パターン
- ミスの程度はビネットに対応、ミスなし (対照群: n=332)、半年に1回 (弱: n=306)、2か月に1回 (中: n=329)、毎月1回 (強: n=297)
- 寛容な信頼 (サンクション) の下位尺度得点を高/低へと2分割

- ◆ 2要因の分散分析を実施

- 「ミスの程度」の主効果は事前情報ありなしとも有意傾向
  - 情報あり  $F(3, 1256) = 2.46, p < .10$ , なし  $F(3, 1256) = 2.61, p < .10$
  - 「寛容な信頼」の主効果も、事前情報ありなしとも有意
    - 情報あり  $F(1, 1256) = 34.24$ , なし  $F(1, 1256) = 30.90$  とも  $p < .01$
    - (※多重比較結果は、図1および2参照)
- 「寛容な信頼」×ミスの程度という交互作用は非有意

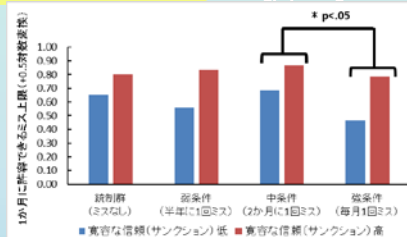


図1 事前情報のある対象への寛容な信頼の違いによるミスに対する許容限度の条件間結果

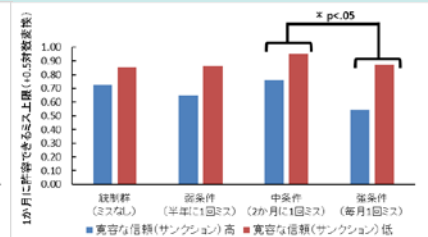


図2 事前情報のない対象への寛容な信頼の違いによるミスに対する許容限度の条件間結果

### 【まとめ】

- ◆ 「信頼」、「寛容」と異なる「寛容な信頼」の存在を確認
- ◆ 「寛容な信頼」の高いとミスへの許容度高いが、そこに一定の限度あり
- ◆ 「寛容な信頼」の高い方が、過去にミスをした人との関係構築に積極的